

郷土の先人 Ver. 4

こころ

かごしまの心

きょう せんじん
～今日，どの先人？～

小学校
1・2年



「あなたの おし は だれですか？」



鹿児島県教育委員会

もくじ

「主題名」しゆだいめい

「教材名」きようざいめい

「登場する人物」とうじようじんぶつ

1 「かんしゃの気もち」き

「わたしたちの家ぞく」か

……… 1

【上白石かみしらishi

萌音もね

・上白石かみしらishi

萌歌もか】

2 「ちがっていてもなかよく」

「ママが教えてくれたこと」おし

……… 4

【AIあい】

3 「みんなのために」

「利右衛門さんのからいも」りえもん

……… 7

【前田まえだ

利右衛門りえもん】

4 「あい手の 気もちを 考えて」——「たすけられた さいごうさん」： 10

【西郷 隆盛・土持 政照】

5 「くじけない 心で」——「くるしさを のりこえて」…………… 13

【鶴田 義行】

6 「ふるさとを 思う 気もち」——「人を 思い ふるさとを 思う」： 16

【八島 太郎】

じどうの みなさんへ

この本は、かごしまと かかわりのある 人たちの お話が のっています。どのお話も その人が かごしまで すごしながら 思ったことや 考えたことが 書かれています。このお話から 考えたことなどを 自分の 生かすに 生かして みましょう。

※ じゆぎよう いがいても 読んでみたい 人の 話が あったら 読んでみましょう。

※ この本の ほかに かごしまと かかわりのある 人たちの お話をのせた本に 「郷土の先人」・

「続・郷土の先人『不屈の心』・「ふるさとの心」があります。学校においてあったり、かごしまけんきよういくいんかい 鹿児島県教育委員会の ホームページに のっていたりするので 読んでみましょう。

1

かんしゃの 気もち

わたしたちの 家ぞく

かごしまで 生まれそだち、今では 東京を 中心に 外国でも
 活やくしていて、はいゆうや 歌手の しごとを している 二人が
 います。その二人の 名前は、あねの 上白石萌音さんと いもうとの
 上白石萌歌さんです。

萌音さんと 萌歌さんは、お父さんや お母さんから
 「人に 会ったときは、この人に ありがとうって 言えることは

なかったかなと 思いかえして 考えなさい。」

「考えないで ものを 言っでは いけないよ。」

などと よく 言われていました。だから、二人は

「お父さんや お母さんのことを きびしい。」と 思っ っていました。

二人は 大きくなり、萌音さんは 大学じゅけんの べんきようが



うまいかず 気もちが おちこんでいた 時ときが ありました。その時とき

お父とうさんとお母かあさんから

「一生いっしょうけんめい やった けっか たどりついた

場ばしよが 一いちばん いい場ばしよだよ。」

と 言いわれました。お父とうさんとお母かあさんの この ことばを

きっかけに 萌音もねさんは「うまく いかなくなったこと、つらくて

しよがなかった ことは なによりの エネえルギーるぎーになり、しっぱいも

たからものになる。」と 考かんえることが できるように なりました。

萌歌もかさんも、十八才じゅうはっさいの時とき はいゆうの しごとを していて 自じ分ぶんの

力ちからが 足たりないと おちこんでいた ことが ありました。その時とき

お父とうさんとお母かあさんから、

「どの おしごとも 大たいへんだから 自じ分ぶんだけが 大たいへんだと 思おもわない

ほうがいいよ。はたらくことは つらい思おもいを することも あるから



自分で えらんだ道に せきにんを もって やりなさい。」
と 言われました。お父さんと お母さんの ことばを きっかけに
萌歌さんは、「自分を ささえてくれる 人たちも くるしいことが
あるから、自分も がんばろう」と 考えることが できるように
なりました。

萌音さんと 萌歌さんは、きびしく しかってくれたり、たくさん
ことを 教えてくれたりした お父さんや お母さんの ことばを 今も
大切に しています。そのことばは、二人が きんちようしたり
ふあんになったりした 時に ゆう気を

くれるものになっ ています。二人は、お父さんや
お母さんのことを 思うと、「ありがとう。」
という 気持ちで 心が いっぱいになります。



2

ちがつていても なかよく

ママが

教えてくれたこと



「ハピネス」
きみがわらえば
このせかい中に
もっと もっと
しあわせがひろがる
きみがわらえば
すべてがよくなる
この手で その手で
つながる

このかしを 書いたAIさんは、中学生まで
かごしまけんで すごしました。
お母さんは アメリカ しゅっしんで、
AIさんも アメリカで すごした ことが
ありました。
このお話は、AIさんが 子どもの ときのお話です。

アンティー。これは、日本語で「おば」という いみです。

わたしには、たくさんの アンティーが います。はだの 色が

ちがう アンティー。生まれた国が ちがう アンティー。

出会って すこししか たっていない アンティー。でも みんな

※おば・・・お父さんや お母さんの 姉妹にあたる しんせき

ママの友だちで、家ぞくのように なかよしです。わたしが
生まれた時から、ママが みんなのことを アンティー
と よんでいたの、しぜんに そう よんでいます。

ママは、いつでも だれにでも 話しかけたり、ハグをしたり
します。ある日、車いすを つかっている人に 出会いました。

わたしは、どうしてよいか わからずに もじもじ していました。

すると、ママは その人に すぐに かけより、声をかけ、
ハグをしました。わたしは、「ええっ。なにしているの。そんな

ことを したら だめだよ。」と、思いました。そして、ママは、

「ヘイ！ 友だちよ。」

と わたしに 言いました。そのことばを 聞いて、

わたしは、たくさんの アンティーたちを

※ ハグ・・・あいさつの かわりに あい手を だきしめること



思い出し^{おもいだ}ました。

「そうだ。みんな友^{とも}だち。そして、家^かぞく。だったな。」自分^{じぶん}とは
ちがうから。なかよくなれない。かかわることは、できないと
思^{おも}ってしまっ^てて、いまし^た。

そうではなくて、自分^{じぶん}とは、ちがうからこそ、あい手^てを知^しりたくなるし
おたがいの、すてきな、ところに、氣^きづくことが、できること。

そして、ちがっていても、ちがいを、みとめ合^あい、ささえ合^あう、ことが
大切^{たいせつ}だ、ということ、を、ママ^{ママ}が、教^{おし}えてくれました。

わたしは、ママ^{ママ}のハグ^{はぐ}を、もういちど、見^みて、みま^した。

これまでよりも、もっと、心^{こころ}が、あたたかく
なりました。



3

みんなの ために

利右衛門さんの からいも

「たくさん 食べて おなかいっぱいになりたいたい。」

むかし 作もつが そだちにくかった

山川（げんざいの 指宿市山川）で 生活していた

前田 利右衛門さんたちは いつも おなかを すかせて いました。

ある時 琉球に 出かけた 利右衛門さんは、

どんな ところでも そだつという「からいも」に

出会いました。利右衛門さんは、からいものなえを

山川に もち帰り、毎日たっぷり 水をかけ、

かれないように 大切に そだてました。

秋になり 土の中を ほると たくさんの

からいもが 出てきました。

※ からいも・・・さつまいも

※ 琉球・・・げんざいの沖縄県



【山川（指宿市）が あるところ】

「あつた。あつた。からいもが あつたぞ。」

大きな声で さけびました。そして さつそく 家ぞくで にて
食べました。はじめて 食べる からいもは ほくほくして、

くりのような あまい あじで みんな え顔で

「うんまか。うんまか。おなかいっぱいだ。」

と、よろこんで 食べました。みんなの 顔を見て

利右衛門さんも うれしく なりました。来年は もっと

たくさん の からいもの なえを 作って 山川の 人たちにも

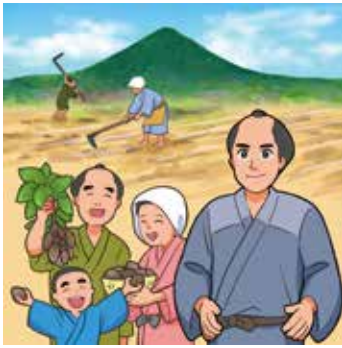
分けてあげよう。そして おいしい からいもを 食べさせて

あげようと 利右衛門さんは 思いました。だから しゅうかくした

からいもは、ぜんぶは食べず なえを 作るために
大切に とっておきました。

利右衛門さんは、いろいろ ためして、たくさん の

なえを 作ることに せいこうしました。そして、できた





やまがわ はたけ ひろ ばたけ
【げんざいも 山川の畑に広がる からいも畑】



りえもん とっこうじんじゃ
【利右衛門さんが まつられている 徳光神社】



りえもん なまえ か せき とっこうじんじゃ
【利右衛門さんの 名前が 書かれた石ひ (徳光神社)】

なえを きんじよの 人^{ひと}に くばり、そだてかたも
ていねいに 教^{おし}えて 回^{まわ}りました。にても、やいても おいしい
からいもは、みんなに 大^{たい}へん よろこばれ、遠^{とお}くからも
なえがほしいと 人^{ひと}びとが やってきました。
利^り右^え衛^{もん}門^{もん}さんのおかげで、山^{やま}川^{がわ}では、からいも
ばたけが どんどん 広^{ひろ}がって いきました。
いちめんに 広^{ひろ}がった からいもばたけを、利^り右^え衛^{もん}門^{もん}さんは
うれしそうに 見^みつめて いました。



4

あい手の 気もちを 考えて

たすけられた さごうはん

みなさんは、西郷隆盛さいごうたかもりさんを 知しっていますか。

これは、西郷さいごうさんが さつまの おとのさまを

おこらせてしまい 沖永良部島おきのえらぶじまに つれて

行いかれた時ときの お話はなしです。

沖永良部島おきのえらぶじまで 西郷さいごうさんが 入はいるろうやは

せまくて かべも ありませんでした。食しょくじも

とても そまつな ものでした。

西郷さいごうさんのおせわをしていた 土持政照つちもちまさてるさんは

「このままでは、西郷さいごうさんが びよう気きに なって

しまう。」と 考かんがえ、ごちそうを つくらせて



さいごうたかもり 【西郷隆盛さんが すごした ろうやの ようす (和泊町 西郷南洲記念館)】

出^だしました。しかし そのたびに 西郷^{さいごう}さんは、

「お気^きもちだけ ちようだい いたします。」

と 言^いって、食^たべることは ありませんでした。このままでは

西郷^{さいごう}さんは 死^しんでしまうと 思^{おも}い、土持^{つちもち}さんは いそいで

だいかんに 会^あいに 行^いきました。

「おねがいがあります。とのさまからの めいれい書^{しよ}には

西郷^{さいごう}さんを かこいの中^{なか}に 入^いれよと

書^かいて あります。家^{いえ}の中^{なか}に つくった

ざしきろうが かこいです。そこに

西郷^{さいごう}さんを うつしてください。」

すると だいかんは、

「ううむ。わかった。家^{いえ}の中^{なか}の ざしきろうに



※ だいかん・・・そこにすむ 人^{ひと}びとの 生活^{せいかつ}を よりよくする人^{ひと}

※ ざしきろう・・・いえの中^{なか}にある ろうや



西郷さん^{さいごう}を うつしなさい。」

と 言^いいました。

土持さん^{つちもち}は 大よろこび^{おお}で、西郷さん^{さいごう}の ところへ

つたえに 行^いきました。

「西郷さん^{さいごう}、家^{いえ}の中^{なか}の ざしき^{ざしき}ろうに、おうつりください。」

すると、西郷さん^{さいごう}は、なみだを ながしながら、土持さん^{つちもち}の

話^{はなし}を きいて いました。そして、こう言^いいました。

「土持さん^{つちもち} 本^{ほん}当^{とう}に ありがとうございます。わたしは この

ろうやの中^{なか}で いつか 死ぬ^{しぬ}だろうと思^{おも}って おりました。」

二人^{ふたり}は ろうやの中^{なか}と 外^{そと}から 手^てを かたく にぎりしめ

ないて よろこび 合^あいました。

西郷さん^{さいごう}に とって、土持さん^{つちもち}は いのちの おんじんであり

かけがえのない そんなに なりました。

5

くじけない
心で

くるしさを のりこえて

鹿児島市の 伊敷という ところに 上の
しやしの ような どうぞうが たって
います。そのとなりの 石ひには こんな
ことばが のこされて います。



鶴田義行さんの どうぞうと 石ひ(鹿児島市)

苦しい うちが ダメ
鍛錬不足の 証拠
苦しさに 慣れ 平気に なって
本当の 苦しさ 探究が 始まる

【いみ】

くるしいと 思っている うちが まだ どの 力 しているとは 言えない。れんしゅうを
かさねて くるしさに なれて、さらに 高い 目ひようへ むかって いくことが 大切です。

みなさんは この人が だれか 知っていますか。

この人は、鶴田義行さん。一九二八年の アムステルダム

オリンピックと 一九三二年の ロサンゼルスオリンピックで

日本で はじめて 二大会れんぞく 金メダルを かくとくした

水えいせん手です。そんな 大きろくをもつ 鶴田さん ですが、

けっして はじめから およぎが 上手だった わけでは ありません。

家の前を ながれる 甲突川。鶴田さんが 子どものころは

きようだいや なかまと その川で よく あそんで いました。

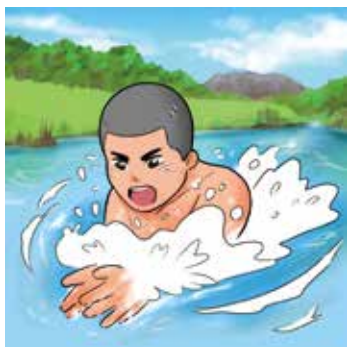
ある 夏の あつい日。鶴田さんは そこで

おぼれそうに なって しまいました。そのころは

まだ およぐことが できなかつたのです。

まけずぎらいの 鶴田さんは それから

およぎの れんしゅうを はじめました。



※ アムステルダム・・オランダの しゅと ※ ロサンゼルス・・アメリカの 大きな と市

※ 甲突川・・鹿児島市を ながれる 川

もちろん はじめは ほとんど 前に ^{まえ}すすむことが
できません。

「くるしいなあ。でも くるしいのは れんしゅうが たりない
しょうこ。まだ まだ がんばるぞ。」

そうして 何^{なん}ども 何^{なん}ども およぎつづけて だんだんと

およぐことが できるようになっ てきました。それどころか

なかまたちが 川^{かわ}の ながれに そつて およいでいる中^{なか}、その

ながれに さからつて 一人 ^{ひとり} 上^{じょう}りゅうへ

上^{じょう}りゅうへと およいでいく すがたも

見^みられるようにな りました。

この 子^こどもの ころの くるしさを のりこえた

けいけんが オリンピックの 金^{きん}メダルに

つながつて いったのです。

※ 上^{じょう}りゅう・・・川^{かわ}のながれの 上^{うえ}の 方^{ほう}



お り ん び ッ ク し ゅ つ と き つ る た よ し ゆ き
【オリンピックに 出^で じ ょ う し た と き の 鶴 田 義 行 さん】

6

ふるさとを 思う おも 気持ち

人を 思い ふるさとを 思う おも

白い すなはまに うちよせる なみの 音。
海を わたる そよ風。

おじいさんになつた 八島太郎さんは、遠く

アメリカの 地で 大すきな ふるさとを

思い出して いました。

八島さんが 生まれたのは げんざいの 南大隅町の

根占です。八島さんは ゆたかな 自ぜんや 友だちと

すごす 時間が 大すきでした。大人になつた

八島さんは 画家となり 絵の べんきようを

したいと 思つて アメリカへ わたりました。



ねじめみなみおおすみちょう
【根占(南大隅町)が あるところ】

ちようど そのころ、日本と アメリカが せんそうを

はじめました。せんそうは しだいに はげしくなり たくさん

人が なくなりました。八島さんが、ふるさとや 友だちを

思わない 日は ありませんでした。八島さんは、「いのちを

だいじに してほしい。生きてほしい。」人と 人が いのちを

うばいあう ことは ぜったいに あってはならない。」と

平和への 思いを 絵にかいて 日本へ とどけました。

かなしみに つつまれた せんそうが やっと おわりました。

八島さんの ふるさとの 根占も せんそうの ひがいを

うけました。せんそうの ために 大切にしていた 自ぜんや

友だちも うしなって しまいました。八島さんの 心も 大きな

かなしみに つつまれました。

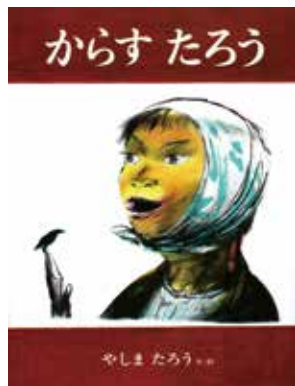
その後、八島さんは、ふるさとで すごした 日びを えがいた

絵や絵本を かきました。

友だちと わらいあつた 日び、心の ささえとなる
 人との つながり、大切に してきた
 思いや ねがい などを いくつもの 作ひんに
 こめたのです。これからの みらいを 生きる
 子どもたちのために。今を 大切に してほしいと。

八島さんは、ふるさとの 根占で
 すごした 日びを えがいた
 作ひんを かいています。
 『からす たろう』・『村の樹』・
 『道草いっぱい』・『海浜物語』
 など、八島さんの 少年時代いの
 思い出や ふるさとへの 思いが
 つたわる 作ひんです。
 ぜひ、読んでみてください。

【八島太郎さんが えがいた作品
 『からす たろう』】〔偕成社〕



【子どもたちにかこまれる画家・絵本作家
 八島太郎さん（本名 岩松 淳さん）】
 〔(株) 創風社〕



かごしまけんりつはくぶつかんに ある きょうりゅうかせきです。
 この かせきの後ろに ある おおきな絵も 八島さんが えがきました。
 子どもが 大すきだった八島さんが、鹿児島の子どもたちに
 見てほしいと 思いを こめて えがきました。
 かせきとともに きょうりゅうたちが 生きていた はくりよくある
 時だいが わかる とても きちょうな ものです。



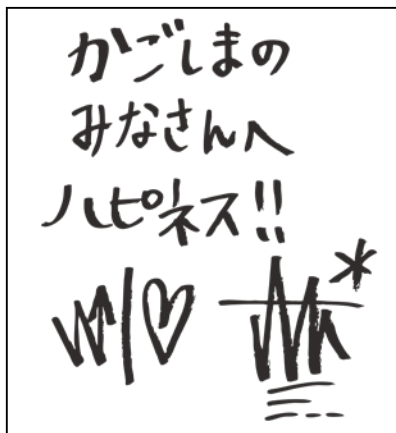
【「海浜物語」の ぶ台である 吹上浜(日置市)】

みなさんへのメッセージ



あい
【AIさん】

今、わたしはお母さんが言っていた
「みんな友だち」ということが、とてもすてきだと思っ
ています。「ちがうことが、いけないのかな。」
「みんな おなじ なのではないのかな。」
「もともと、みんなを くべつしなくても
いいのでは ないかな。」 そう思っ
ています。
どこに すんでいても、どんな ことばを
話しても、みんなに 楽しく いてほしい、元気で
あって ほしい。歌っている 歌にも その思いを
こめて います。そして、その 思いが せかい中の
みんなに とどく ことが わたしの ねがいです。



かみしらいしも か
【上白石萌歌さん】

ひと 人の ごえんや ごおんを 大切に してください。小さいころに 見た
けしきや 体けん、友だちと けんかしたことなどは 自分を つくる もとに
なります。いろいろな ことを 一ばん キヤッチ できる じきだと 思うので、
まい日、朝あきて 学校に 行く だけでも すばらしい ことです。
まい日 いろいろな ことを かんじながら すごしてください。



かみしらいしも ね
【上白石萌音さん】

あい手が どんな気もちで いるか、これを 言ったら どういう 気もちに
なるか そうぞう力を もって 生活してください。
うれしいことや かなしいことは 大人に なって 自分をたすけて くれます。
とくに かなしいことや つらいことを けいけんすると やさしく なれます。
心が うごくことは しあわせな ことです。心を うごかすことを 大じに
してください。

保護者の皆様へ

この本は、鹿児島県の子供たちのために作成した道徳の教材です。子供たちが、この本に登場する人物の考え方や生き方にふれ、自分の生き方について考えを深め、夢や希望をもって過ごしてもらえることを願って作成しました。ぜひ、この教材と一緒に読んでいただき、お子さんと思ったことや考えたことを話し合ってみてください。また、さらに知りたい、深めたい場合には下に記載している【参考・引用文献】も紹介してみてください。

【参考・引用文献】（順不同）

□前田 利右衛門

「かごしま文庫⑨ さつまいも一伝来と文化一」（春苑堂 1994 年）
 「令和 5 年度企画展図録 指宿まるごと博物館 XIV 海が織りなす焼酎文化 ～芋・技・肴・器～」
 （指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ）
 「甘藷翁物語」（三州談義社 1966 年）

□西郷 隆盛・土持 政照

「西郷隆盛と沖永良部島」（和泊西郷南洲顕彰会 2011 年）「郷土の先人（土持 政照）」（和泊町教育委員会）
 「えらぶの西郷さん」（和泊西郷南洲顕彰会 1988 年）

□鶴田 義行

「(財)日本オリンピック委員会監修『近代オリンピック 100 年の歩み』」（ベースボール・マガジン社 1994 年）
 「南日本新聞社編『郷土の人系 中巻』」（春苑堂 1969 年）「知ってるつもり」（日本テレビ 1992 年）
 「郷土教育 第 6 号」（鹿児島県総合教育センター指導資料 2021 年）
 「文藝春秋 第 98 巻第 1 号」（文藝春秋 2020 年）
 「オリンピックを通してつかんだ水泳の心」（鹿児島県総合教育センター読み物教材 2021 年）
 「南日本新聞『かごしま 20 世紀山河こえて』」（南日本新聞社 1999 年）
 「伊敷地域ガイドマップ」（伊敷地域まちづくりワークショップ 出版年不明）
 「日本の金メダリスト事典 1 夏季オリンピック・冬季オリンピック編」（ベースボール・マガジン社 2018 年）
 「失敗図鑑 偉人・いきもの・発明品の汗と涙の失敗を集めた図鑑」（いろは出版 2018 年）

□八島 太郎

「八島太郎 - 日米のはざまに生きた画家 -」（創風社 2008 年）

【協力】（敬称略、順不同）

東宝芸能（株）／株式会社 ザ・マイカホリックス／指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ／
 西郷南洲記念館／西郷南洲顕彰館／和泊町教育委員会／和泊町立和泊小学校／南大隅町教育委員会

真竹 由子／山田 みほ子／假屋園 昭彦／島津 公保／下豊留 佳奈／野間 友見／永里 智広／
 山下 久美子／泉 宗弘／山口 親悟／長藺 誠／前畑 あさよ／塩満 貞徳／所崎 陽／池来須 隆子／
 坂口 洋幸／安樂 朋陽／梶 千明／諸平 幸奈／西原 真琴／西村 優子／毛利 秀喜／富吉 祐輔

学習内容一覧			
	主題名	教材名	内容項目
1	かんしゃの 気もち	わたしたちの 家ぞく	B 感謝
2	ちがっていても なかよく	ママが 教えてくれたこと	C 公正, 公平, 社会正義
3	みんなの ために	利右衛門さんの からいも	C 勤労, 公共の精神
4	あい手の 気もちを 考えて	たすけられた さいごうさん	B 親切, 思いやり
5	くじけない 心で	くるしさを のりこえて	A 希望と勇気, 努力と強い意志
6	ふるさとを 思う 気もち	人を 思い ふるさとを 思う	C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度

「道徳教材～小学校 1・2 年生用～」
 令和 7 年 2 月発行
 編集・発行 鹿児島県教育委員会
 〒 890-8577 鹿児島市鴨池新町 10 番 1 号

日本音楽著作権協会（出）
 許諾第 2408292-401 号

この本の副タイトルについて

副タイトルを「今日、どの先人？（きょう、どのせんじん？）」としました。

その理由は、以前、私たちが作成した「郷土の先人（きょうどのせんじん）」の続編（4作目）であるからです。

また、これまでの教材を含めて「今日は誰の話を読もうかな」と前向きに思っ^{まへむ}てほ^{おも}しいという願^{ねが}いも込^こめています。